

## 中央保育園 自己評価結果

保育所保育指針において、保育士及び保育所の自己評価並びにその公表が努力義務とされています。このことを踏まえ中央保育園では保育の質の向上を図る為に、令和2年10月に保護者アンケート、令和3年3月に職員の自己評価を行い、保育所全体の自己評価表として集計致しました。さらに令和3年度を過ごしてみて、改めて今後もより良い保育を提供できるように考えていきたいと思っております。

評価基準 子どもの育ちを支える保育内容、職責などを3つのランクで評価しています。

- A : 取組・把握・整備を十分行い、共通理解も十分図られている
- B : 取組・把握・整備は行っているが、共通理解が十分ではない
- C : 取組・把握・整備を行っていない

評価責任者 中央保育園 園長 樋口小夜

評価項目	評価	評価の根拠、改善方法
保育所の理念、基本方針を読み、理解しているか	A	入職時にオリエンテーションを行い、プリントやホームページにて周知を行っている。
保育所における自分自身の役割や責任を理解しているか	A	子どもの命を守ることを第一に、各自の責任を理解していると考え
個人情報の保護や守秘義務を理解しているか	A	理解している。小さな町なので、知り合いの知り合いがたくさんいる地域であるが、業務上知りえた情報は、園外に漏らすことがないよう、職員全員に周知する。
子どもの発育や発達の状態、家庭での様子など保護者と情報共有できているか	A	口頭や連絡帳アプリを活用し、情報共有できている。
子どもの健康(機嫌・顔色・熱・食欲等)について、登園時・保育中に把握しているか	A	登園前及び保育中の体温測定、午睡チェック、視診など心がけている。
子どもの生理的欲求(食欲・睡眠等)が満たされるよう配慮しているか	A	調理室と連絡を取り合い、子どもたちがおいしく残さず食べる給食になるよう配慮。睡眠時はライティングや音楽を調整し心地よい睡眠を提供。排泄も無理なく整うよう配慮している。

<p>子どもの状況に応じて、あたたかなやり取りやスキンシップ、声掛けを行っているか</p>	<p>A</p>	<p>個人差を受け止め、個別配慮できるように行っている。また、クラス担任を主軸にして、保育士により配慮方法が異なることがないように、努める。</p>
<p>保育過程、指導計画の作成・評価について、理解でき、支援に行かせているか</p>	<p>B</p>	<p>日々の保育を計画・評価する際、必ず記録しているが、十分な理解をしながら作成できているか、職員自己評価の結果に表れている。研修等を通じて、より実践的な計画・評価ができるよう取り組む必要がある。</p>
<p>健康や安全・衛生管理を理解し、環境を整備し、取組を行っているか</p>	<p>B</p>	<p>感染症登園基準を定め、共通理解をしながら衛生管理に努めている。 安全については、毎月避難訓練を行っているが、認識の違いを感じることもあり、命を守ることは共通理解しているので、より効率的な取り組みが必要と感じる。</p>
<p>子どもに適切な食事を提供し、見直しや改善を行っているか</p>	<p>A</p>	<p>調理室を中心に、食事は十分配慮を重ねながら行っている。日々の給食もインスタグラムに掲載し、保護者がわかりやすく見ることができるようにしている。</p>
<p>保護者に対し、保育の内容や様子を伝える取組を行っているか</p>	<p>A</p>	<p>ホームページ等を活用し、日々の保育を公開している。ただし、お預かりしている目の前にいる子どもたちを保育し、支援し、見守ることが園職員の第一義であるので、そこをおろそかにすることがないようにすることが大事と考える。</p>
<p>職員の資質向上のため、所長の責務や指導力を発揮しているか</p>	<p>B</p>	<p>研修など十分機会を設けられていない現状。どう改善していけば資質向上につながるか模索している状況である。</p>

### <保育の気づきと振り返り>

保育士の自己評価を踏まえて、保育士は子どものことを理解しよう、個々の子どもの心に寄り添おうとしている姿勢が十分見れた。一方で、業務の効率化や分担の仕方など、チームワークに基づいた業務を行い、園児に適切な支援をできているかどうか、各自考える機会になったと推測する。また、事故や災害時などにおける保育士の行動力について不安を感じている結果がでている。月1回の避難訓練や職員会で、情報を共有し、まずは子どもと職員の命を守る行動ができるようにしていく。

### <今後の課題>

書類として計画やマニュアルをそろえていても、それが理解・実践・評価につながる事が大事であると感じる。

7時～19時の12時間、子どもの命を預かっている中で、書類作成やミーティングの時間を確保するのは、工夫が必要である。ICTソフトを導入し、情報共有をしやすい環境を整えた。コピー削減(ペーパーレス)が進み、事務量を軽減し、子どもと向き合う時間を確保できるよう進めているが、個別の事務処理力にも個人差があり、足並みが揃っていない部分もある。保護者との連絡手段も電話のみから、SNS やアプリでの発信が増えた分、保護者との対面コミュニケーションが減ることがないように、信頼関係を築く意識も今まで以上に必要と感じる。

### <今後の目標>

#### ・仕事の能率化の推進

業務内容の簡素化(例えば、台ふきを一晩消毒につけてるが、消毒作用は一定時間で効果があるため、職員の多い時間帯に効率的に行う)時間外労働にならないように、スリム化を行い、全職員が協力して行うように話し合う。また、保育業務の個々のアンバランスが生じないようにする。

#### ・園児に寄り添う保育を心がける

「寄り添いたい」思いは各自にある。命を預かっている意識を持ち、子どもの自己肯定感を育てる保育を心がける。子どもには「生きる力」「見抜く力」が備わっていて、実は大人を超える素晴らしい存在である。子どもの人権に配慮し、平等に、公平に接していくことは、職員のチームワークや姿勢によることも大いにあるので、十分配慮していく。

#### ・保護者との信頼関係をより築く

アプリを使って、電話以外のコミュニケーション手段が増えているが、保護者と先生の関係が個人的に親密にならないように注意し、かといって、希薄にならないように十分配慮を行う。